

# 建築審査会添付図書記載例

(法第56条の2)

目標となる地物は、最寄りの駅や市役所など誰もが知っているものとし、名称は見やすい文字で表示し枠で

〇〇駅

原則、図面右上に記載することとし、他の図においても、記載位置及び表示を合わせる。



申請地は赤色塗りつぶしとし、見づらい場合は、赤枠で囲む。

申請地

申請地文字は、赤字で記載し枠で囲む。

用途地域の表示は、都市計画図の表示と合わせた記載とすることとし、凡例(図内にあるもののみ)を法の条項順に記載す

△△市

市境がある場合は、2点鎖線で表示する。

下図は市町村の都市計画図等を利用し、周辺の地形地物、道路及び鉄道等を表示することにより、できる限り申請地の位置関係が分かりやすい表示とする。

〇〇市

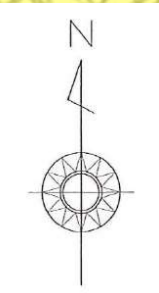
枠のサイズは 25mm×100mm とする。(以下図面共通)

市を跨ぐときは、市名を記載し、用途地域を着色する。

図面名称、縮尺、図面番号は図面右下に記載すること。なお、縮尺は 1/10,000 程度とする。

凡 例	
表 示	用 途 地 域
	第二種中高層住居専用地域
	第一種住居地域
	近隣商業地域
	商業地域
	準工業地域
	工業地域
	指定のない区域 (市街化調整区域)

図面名称		都市計画図	
縮 尺	1/10,000	図面番号	1



第一種住居地域

用途地域の表示を都市計画図の表示と合わせることで、当該用途地域が分かるように表示する。  
(市町村をまたぐ場合は、市町村ごとに表示する)

申請地周辺については、現況に合わせて都市計画図を修正する。

原則、図面右上に記載することとし、他の図においても、記載位置及び表示を

第二種中高層住居専用地域

申請地は形状を正確に赤枠で囲む。

申請地

市街化調整区域も表示する。  
(市町村をまたぐ場合は、市町村ごとに表示する)

市街化調整区域

図面名称、縮尺、図面番号は図面右下に記載すること。なお、縮尺は1/2,500程度とする。

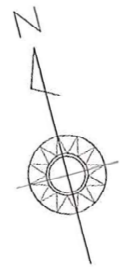
図面名称		付近見取図		
縮	尺	1/2,500	図面番号	2

主要な用途を記載する。

建物の境界線からの距離を建物の位置が定まるように記載する。

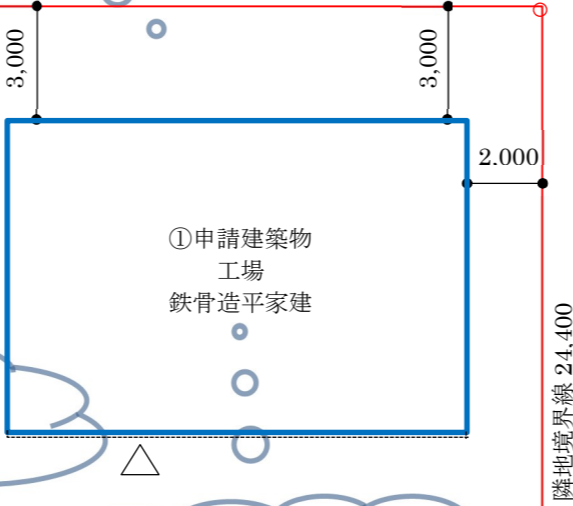
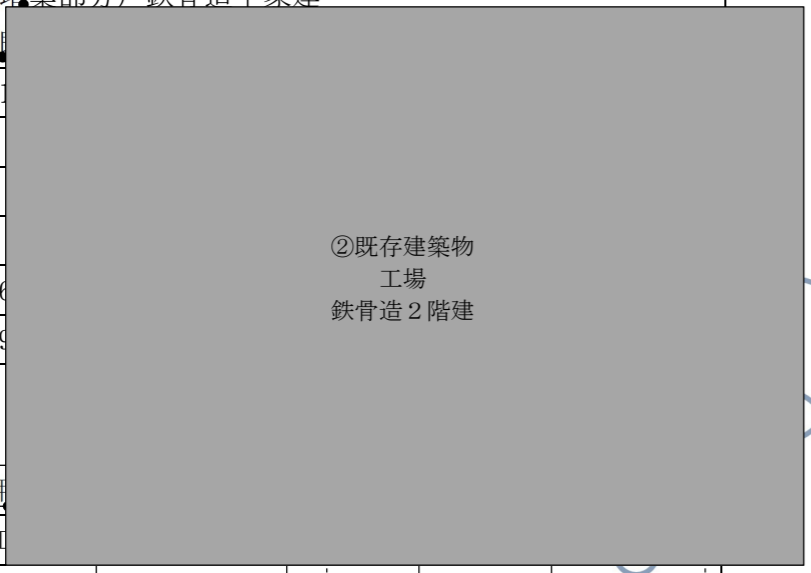
敷地が公園、広場、水面、線路敷等に接する場合は、( )で記載する。  
例：隣地(水路)境界線

敷地境界線は赤色とし、寸法(単位はmm)を敷地の外側に記載する。



計画概要

用途地域	第一種住居地域
主要用途	3,000(増築部分) 鉄骨造平家建
構造・階数	3,000(増築部分) 鉄骨造平家建
敷地面積	94.1
建築面積	
延べ面積	
建蔽率	4.6
容積率	7.9



用途、構造、階数程度を記載する。

既存部分は、グレーに着色し、増築部分は青枠とする。

建築物概要

棟番号	棟3,000用
増築部分	① 工場
既存部分	② 工場 鉄骨造2階建 313.76㎡ 627.52㎡ 昭和58年
	③ 事務所 鉄骨造平家建 21.00㎡ 21.00㎡
計	334.76㎡ 648.52㎡
	③ 既存建築物 事務所 鉄骨造平家建 434.80㎡ 748.52㎡

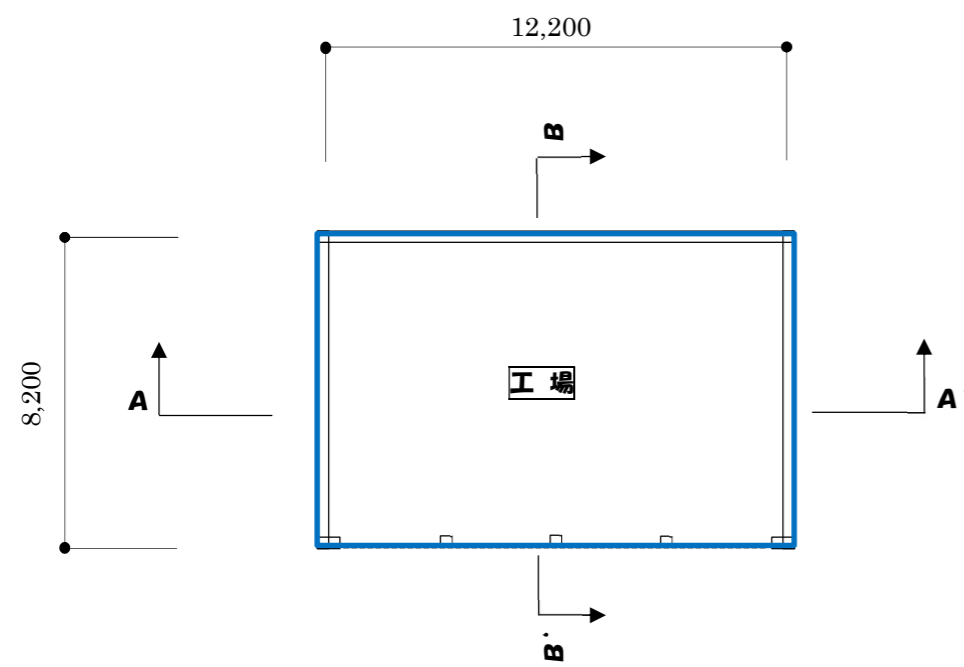
凡例

▲	敷地出入口
△	建物出入口
□ (blue border)	増築部分
■ (grey)	既存部分

場合は、建築物概要、棟番号を図面と築が先、既存は後は古いものの順に

図面名称、縮尺、図面番号は図面右下に記載すること。なお、縮尺は1/200~1/600程度とする

図面名称		配置図		
縮尺	1/200	図面番号	3	

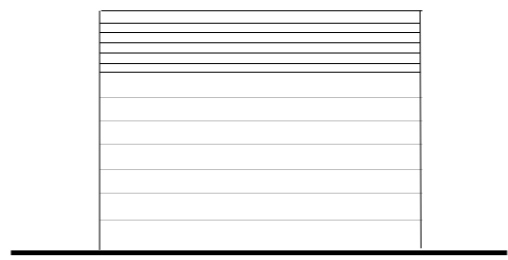


平面図

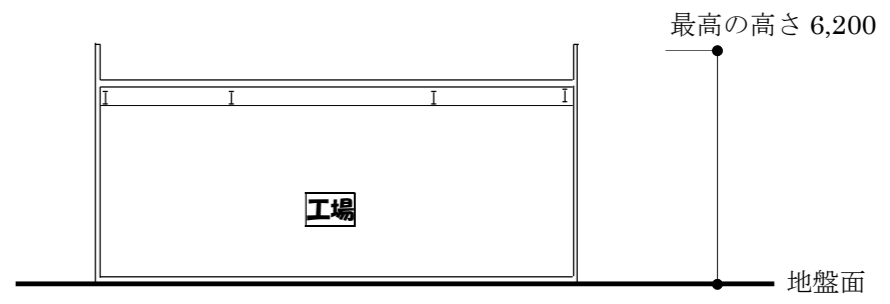


方位の関係のない図面が同一図書上に記載されている場合は、適切な位置に記載する。

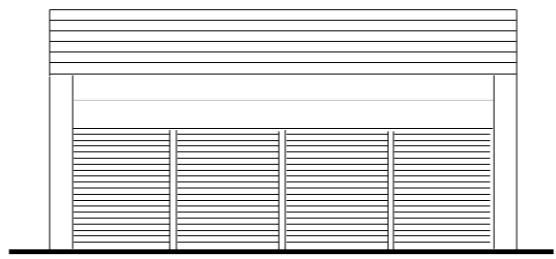
最高の高さを記載する。  
(平面方向の寸法は記載不要)



東立面図

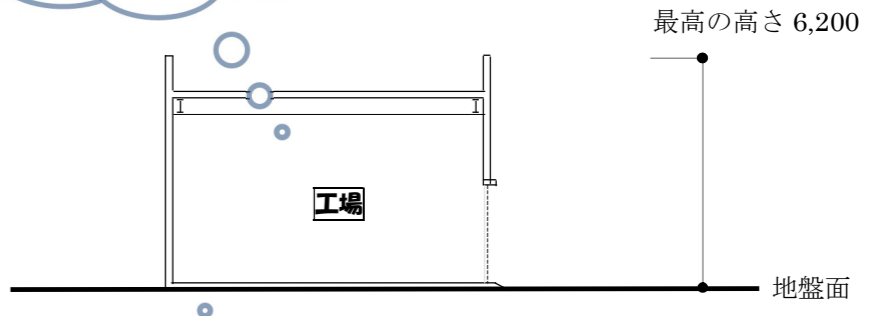


A-A'断面図



南立面図

奥の壁等は図示しない。



B-B'断面図

地盤面以下は記載しない。

建築物が小規模な場合等で、平面図、立面図等を同時に記載しても支障ない場合は、一緒に記載してもよい。

図面名称	平面図・立面図・断面図		
縮尺	1/200	図面番号	4

計算日時	冬至
計算緯度	北緯 34° 59'
——	時刻日影 (8:00~16:00)
——	等時間日影 (2.5時間)
——	等時間日影 (4時間)
測定面 (※)	4m
11,000 (11,000)	建築物の高さ (mm) ( ) 内は平均地盤面からの高さ

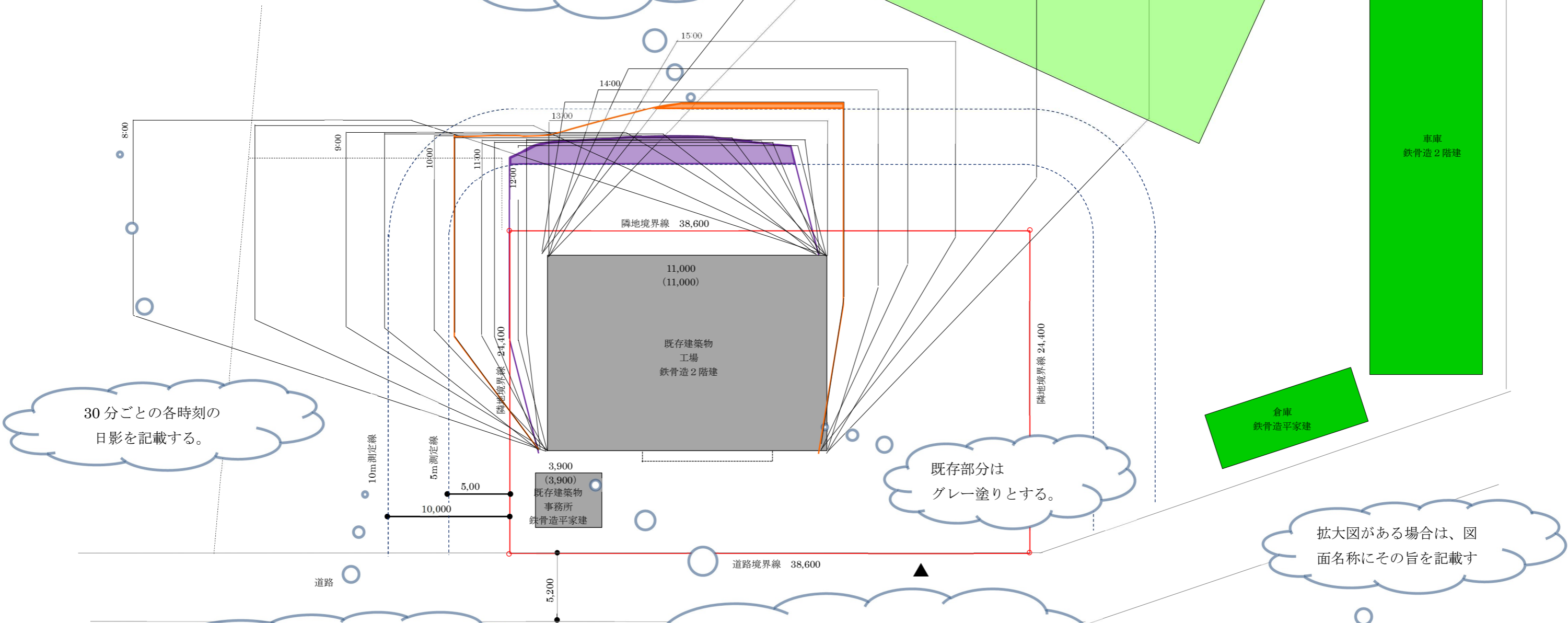
※別表第4 (は) 欄の高さ

凡例等を記載する。  
なお、等時間日影及び測定面は用途地域により異なるため注意する。

不適格の部分を着色  
(薄い紫色又は薄い橙色)

周囲の建築物について、用途、構造、階数を記載する。

日影図の場合は、方位の表示を「真北」とする。



30分ごとの各時刻の日影を記載する。

既存部分はグレー塗りとする。

拡大図がある場合は、図面名称にその旨を記載す

測定線を記載する。(水路等がある場合の測定線の位置に注意する)

建築物の高さと平均地盤面からの高さを記載する。なお、建物の部分毎に高さが異なる場合は、各部分毎に高さを記載することとし、高さの変わる部分を線で分ける。

図面名称	現況日影図		
縮尺	1/300	図面番号	5

計算日時	冬至
計算緯度	北緯 34° 59'
時刻日影 (8:00~16:00)	時刻日影 (8:00~16:00)
等時間日影 (2.5時間)	等時間日影 (2.5時間)
等時間日影 (4時間)	等時間日影 (4時間)
測定面 (※)	4m
平均地盤面の変化	増築前の平均地盤面+20mm
11,000 (10,980)	建築物の高さ (mm) ( ) 内は平均地盤面からの高さ

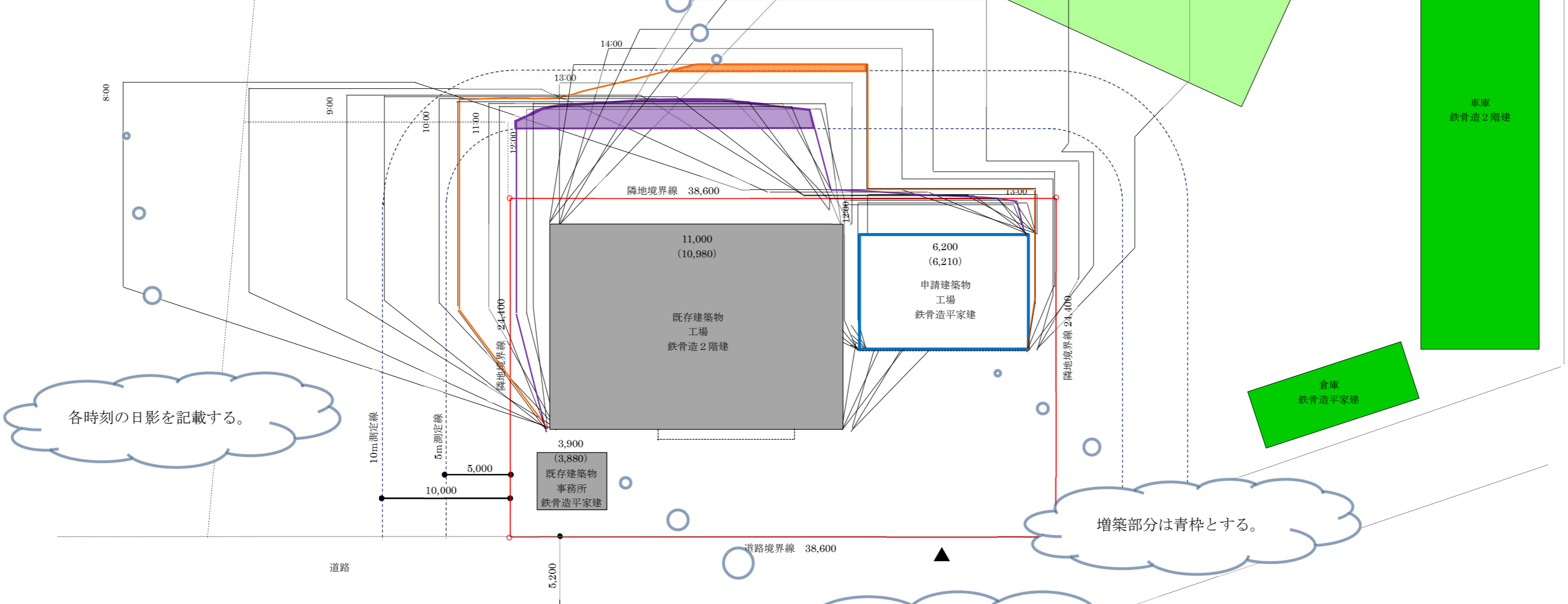
※別表第4 (は) 欄の高さ

凡例等を記載する。  
なお、等時間日影及び測定面は用途地域により異なるため注意する。

周囲の建築物について、用途、構造、階数を記載する。

日影図の場合は、方位の表示を「真北」とする。

不適格の部分を着色  
(薄い紫色又は薄い橙色)



各時刻の日影を記載する。

増築部分は青枠とする。

建築物の高さと平均地盤面からの高さを記載する。なお、建物の部分毎に高さが異なる場合は、各部分毎に高さを記載することとし、高さの変わる部分を線で分ける。

図面名称	複合日影図		
縮尺	1/300	図面番号	6

計算日時	冬至
計算緯度	北緯 34° 59'
——	時刻日影 (8:00~16:00)
——	等時間日影 (2.5時間)
——	等時間日影 (4時間)
測定面 (※)	4m
6,200 (6,210)	建築物の高さ (mm) ( ) 内は平均地盤面からの高さ

※別表第4 (は) 欄の高さ

凡例等を記載する。  
 なお、等時間日影及び測定面は用途地域により異なるため注意する。

周囲の建築物について、用途、構造、階数を記載する。

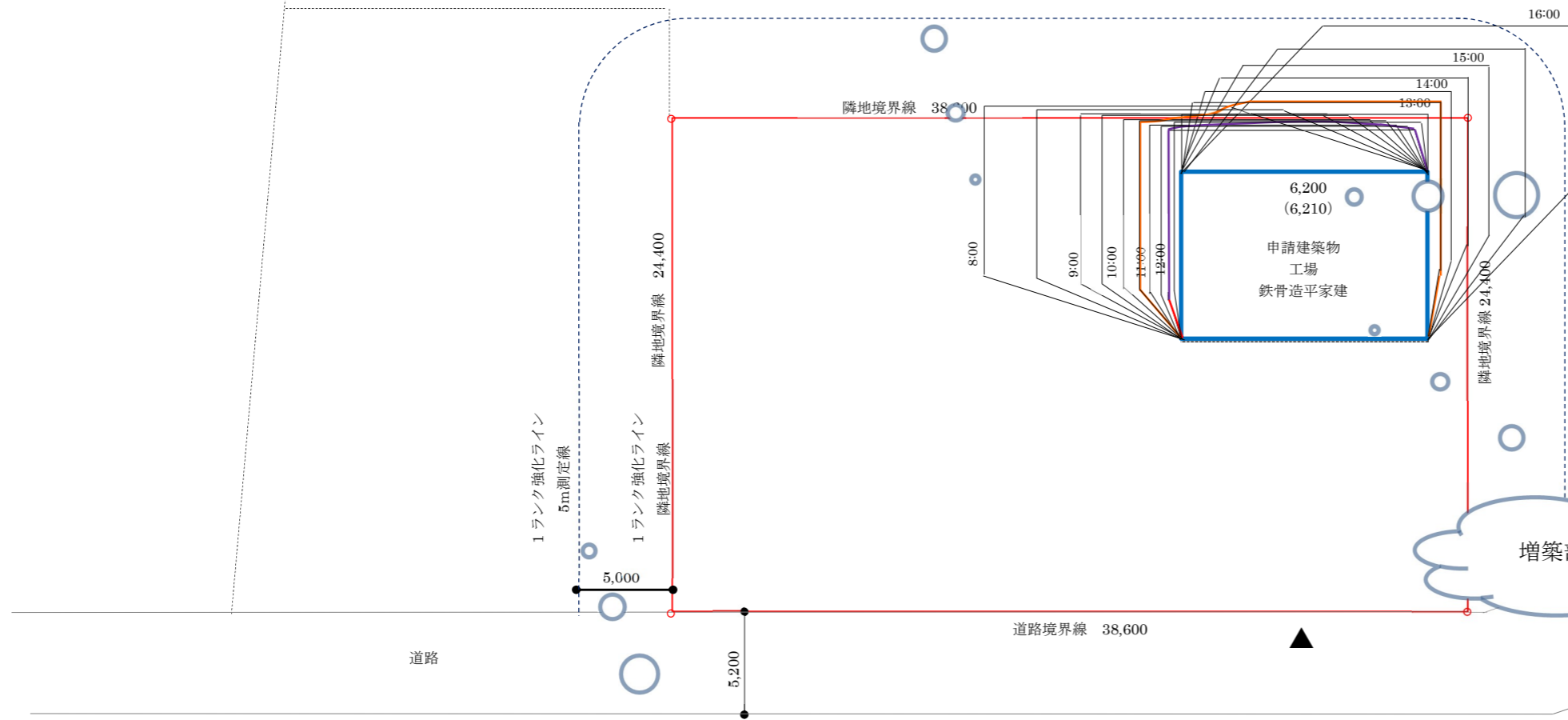
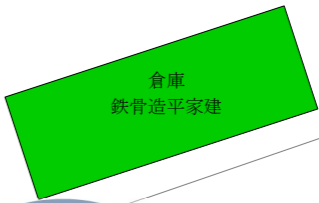
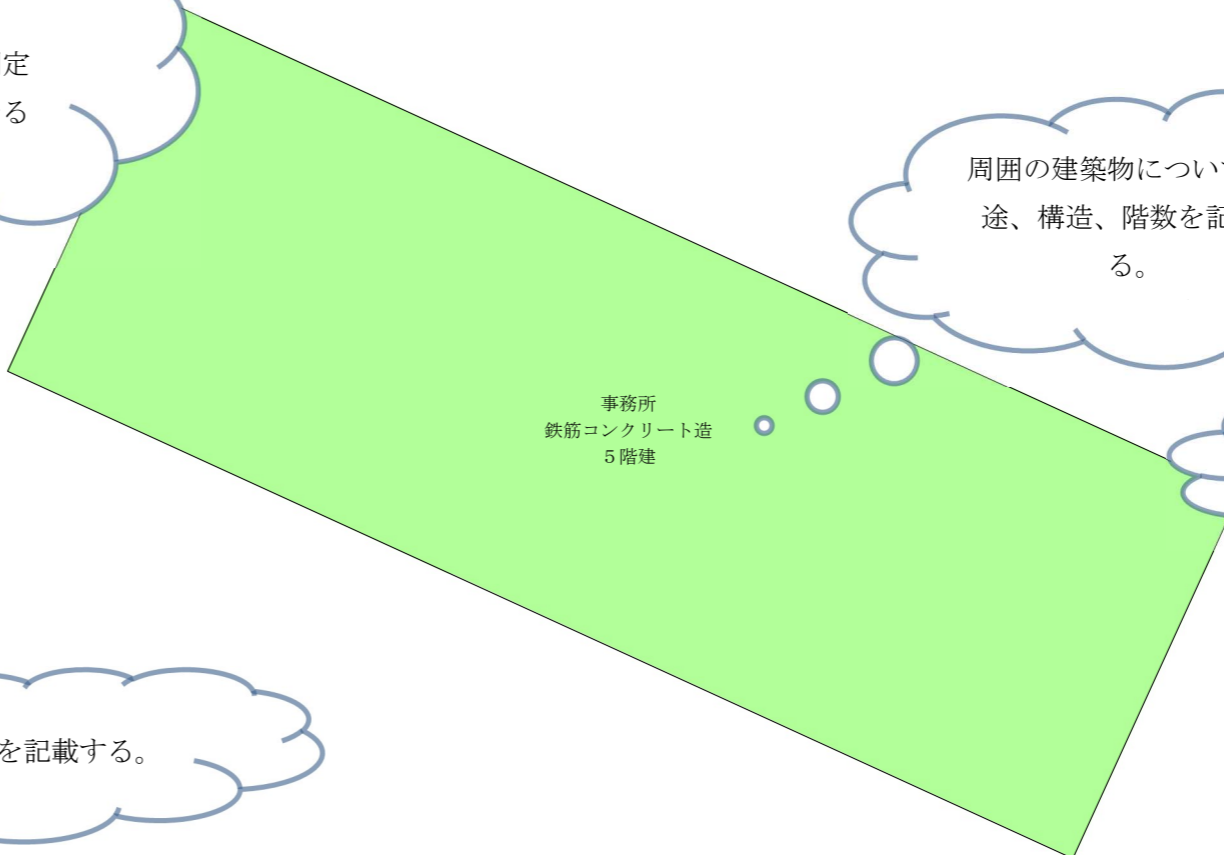
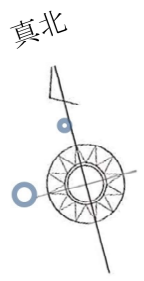
日影図の場合は、方位の表示を「真北」とする。

各時刻の日影を記載する。

建築物の高さと平均地盤面からの高さを記載する。なお、建物の部分毎に高さが異なる場合は、各部分毎に高さを記載することとし、高さの変わる部分を線で分ける。

増築部分は青枠とする。

単独日影図の測定ラインは、1ランク強化 (10mを5mライン、5mを隣地境界線) として、記載する。



図面名称		単独日影図		
縮	尺	1/300	図面番号	7